

災害の記憶と向き合う

能登半島地震からまもなく3年、災害遺構^{いこう}の保存活用や語り部の活動などが注目を集める一方、今でも被災の記憶に苦しむ人や、喪失感が拭えない人も多いのではないのでしょうか。本セミナーでは、災害の記憶を伝えるための試みや、災害死のとらえ方について取り上げます。災害の記憶とどのように向き合うか、改めて考える契機となれば幸いです。

第1回

2026年11月15日(日)

災害文化とミュージアム

はやし いさ お
講師：林 勲男 氏

(国立民族学博物館名誉教授 /
人と防災未来センター震災資料研究主幹)

災害文化とは、地域社会が災害経験から学び、継承してきた知識や価値観、行動様式などを指します。災害が頻発化、激甚化している現在、あらためてミュージアムにおける災害展示について考えてみます。

第2回

2026年11月28日(土)

幽霊現象と愛おしき死者たち —悲しみを抱えて生きるための社会学—

かね びし きよし
講師：金菱 清 氏

(関西学院大学社会学部教授)

阪神・淡路大震災、東日本大震災の事例から、残された人々が体験する幽霊現象や死者との体験に着目。社会学の視点から、喪失の悲しみを抱えて生きる人々にとっての『愛おしき死者たち』との関係性や、生きていくための意味を読み解きます。

第3回

2026年12月5日(土)

かい なん く よう
海難死者と魚類の供養

かわ しま しゅういち
講師：川島 秀一 氏

(神奈川大学日本常民文化研究所客員研究員)

海に囲まれた列島に生きる人びとは、幾度も津波や海難事故^{かいなん}に遭いながら、死者と生物に対する継続的な供養^{くよう}のなかで、その出来事を伝えてきました。西欧的な発想からは至らない、生物観・生死観・災害観から災害伝承^{とら}を捉え直します。

会場 石川県立歴史博物館 第2棟2階 ワークショップルーム

時間 13:30~15:00 (13:00 開場)

定員 各回 先着80名 当日受付可能ですが、事前申込優先です

申込方法 お電話、往復はがき、メール(rekihaku@pref.ishikawa.lg.jp)※

記載内容 イベント名・お名前(参加者全員)・電話番号・ご住所(はがきのみ)

参加
無料



いしかわ県立歴史博物館

石川県立歴史博物館
ISHIKAWA PREFECTURAL MUSEUM OF HISTORY

〒920-0963 石川県金沢市出羽町3-1
TEL 076-262-3238 (学芸課)

※メールへの返信が1週間以上ない場合は、お手数ですがお電話ください。